

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「物語を読んで考えたことを、伝え合おう」 教材名「ぼくのブック・ウーマン（ヘザー・ヘンソン 作／藤原宏之 訳）」

2 単元の目標

日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付く（(3)オ）。人物像や物語などの全体像を具体的に想像し、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる（C(1)エ・オ）。物語を読んで考えたことを、自分の生活や読書経験と結び付けて、進んで伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。（(3)オ）	①「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像している。（C(1)エ） ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ）	①進んで、物語を読んで考えたことを自分の生活や読書経験と結び付けてまとめ、学習の見通しをもって、友達と伝え合おうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

本教材は、本を読もうとしなかった少年「カル」が、馬に乗って山の家まで本を届けに来る「ブック・ウーマン」の姿に心を動かされ、本を読むようになっていく物語である。「カル」自身が語り手なので、本やブック・ウーマンに対する見方が少しずつ変わっていく様子を、「カル」の言葉で追える。学習指導要領第5学年及び第6学年のC(1)エの、人物像や物語の全体を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする学習と、C(1)オの、読んだ内容を基に自分の考えをまとめる学習を働かせられる教材である。本を読むことそのものが題材なので、子どもが自分の読書経験と結び付けて考えやすく、(3)オの「読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと」とも直接結び付く。外国の物語を翻訳した作品で、第3の3(2)コの「世界の風土や文化などを理解」する観点にも合う。第5学年の伝記や物語で学んだ、人物の生き方や考え方を自分と比べて考える学習を、物語全体から考えをまとめる学習へ進める位置にある。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にします。まず、第2時で物語全体での「カル」の見方の変化を図にまとめ、本時はその図を根拠にして考えさせる。考えたことの根拠は、場面と「カル」の行動で示させる（C(1)エ）。次に、考えを自分の生活や読書経験と結び付けてまとめさせる。経験は読書に限らず、学校や家庭での出来事でもよいとし、話したくない経験は書かなくてよいことを伝える（C(1)オ）。そして、第4時の語り合いでは、同じ物語から違う考えが生まれることを確かめ、友達の考えを聞いて自分の考えが広がったことを振り返らせる（C(1)カ、(3)オ）。本時のノートは、考えたこと・物語の根拠・結び付けた経験の三つがそろっている物を「おおむね満足できる」状況、物語の初めと終わりの「カル」の違いを根拠にし、経験と比べて似ている所と違う所の両方を書いている物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画（全4時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○範読を聞き、初発の感想を書く。 ○時・場所・人物などの物語の設定を確かめる。 ○学習課題「物語を読んで考えたことを、自分の生活や読書経験と結び付けてまとめ、伝え合おう」と学習の計画を確かめる。	態①（初発の感想）
第2次	2	○物語の初めから終わりまでで、「カル」の、本とブック・ウーマンに対する見方がどう変わったかを、表現を基に捉え、「カルの見方の変化の図」にまとめる。 ○「カル」が語り手であることで、どんな所が伝わりやすくなっているかを考える。	思①（ワークシート）
	3 （本時）	○物語を読んで考えたことを、自分の生活や読書経験と結び付けて、ノートにまとめる。	思②（ノート）
第3次	4	○まとめた考えをグループで読み合い、共通点や相違点を語り合う。 ○学習を振り返る。翻訳された物語や、本を届ける仕事を題材にした本を紹介する。	知①（振り返り） 態①（観察・振り返り）

6 本時の指導 (3/4)

(1) 本時の目標

「カル」の見方の変化を基に、物語を読んで考えたことを、自分の生活や読書経験と結び付けて、自分の考えとしてまとめることができる。(C(1)オ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前の時間の「カルの見方の変化の図」で、物語の初めと終わりの「カル」の、本とブック・ウーマンに対する見方を確かめる。 2 本時の問いをつかむ。 ○「『カル』の変化を読んで、あなたが考えたことは何ですか。それは、あなたのどんな経験と結び付きますか」 【めあて】物語を読んで考えたことを、自分の生活や読書経験と結び付けてまとめよう。 〈予想される児童の反応〉 ・初めは、本なんて読まなくていいと思っていた。 ・終わりには、自分から本を読もうとしている。 ・ブック・ウーマンが、どんな天気の日も本を届けに来ることで、カルの気持ちが変わった。	・前時の図を黒板の右側に貼り、変化のきっかけになった出来事の所を示す。 ・本時は、物語の感想を書くのではなく、物語から考えたことを自分の経験と結び付けてまとめる時間だと伝える。

AI三重

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
展開 (分)	3 物語を読んで考えたことを、一文で書く。 ○「この物語を読んで、あなたが一番考えたことは何ですか」 4 考えたことと結び付く、自分の生活や読書経験を思い出して書く。 （観点の例）・何かを好きになったきっかけ ・人に助けられた経験 ・読んで考えが変わった本 5 ペアで、考えたことと経験の結び付きを説明し合い、足りない所を聞き合う。 ○「その経験は、物語のどの場面の『カル』と似ていますか。違う所はありますか」 6 考えを、物語の根拠と自分の経験を入れてノートにまとめる。 （型）「物語の…の場面で、『カル』は…。これを読んで、わたしは…と考えた。わたしにも…という経験があるからだ。…」 〈予想される児童の反応〉 ・好きなことは、だれかに言われるより、自分で気付いた時に始まる。 ・本を届けてくれる人がいるから、本が読める。 ・何かをずっとやり通している人を見ると、自分もやってみたくなる。 ・わたしも、兄が読んでいた本を最初はつまらないと思っていたけれど、読んでみたらおもしろかった。 ・図書館の先生がすすめてくれた本で、本が好きになった。 ・習い事をやめたいと思った時、がんばっている友達を見てもう少しやってみようと思った。	・考えたことが書けない子には、前時の図の「変化のきっかけ」の所を示し、「この時のカルを見て、どう思いましたか」と聞く。 ・経験が思い出せない子には、読書経験だけでなく、学校や家庭での出来事でもよいと伝える。観点の例を板書しておく。 ・「おもしろかった」「感動した」で終わる子には、「物語のどこを読んで、そう考えたのか」と返す。 ・物語の根拠は、場面と「カル」の行動で示させる。本文の表現を引く時は、使う教科書から先生がワークシートに書き入れておく。 ・家庭の事情など、話したくない経験は書かなくてよいことを伝える。 ・早く書けた子には、前に読んだ別の本と比べて考えを書き足させる。
まとめ (分)	7 二、三人が、まとめた考えを読み上げる。 8 振り返りを書く。	・読み上げは、物語の根拠と経験の結び付きがはっきりしている物を選ぶ。 ・振り返りは「自分の経験と結び付けて考えたこと」と「次の時間に友達に聞いてみたいこと」の二つで書かせる。 ・次の時間は、まとめた考えをグループで読み合い、共通点や相違点を語り合うことを伝える。 ◎思② 物語を読んで考えたことを、「カル」の見方の変化と自分の生活や読書経験を根拠にしてまとめている。（ノート）

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ。右端に日付・題名・めあて。その左に前時の「カルの見方の変化の図」（物語の初めと終わりの「カル」の見方を上下に置き、間に変化のきっかけになった出来事を並べる）を貼る。中央に本時の問いと、子どもが考えたことを短い言葉で並べる。その左に、結び付ける経験の観点の例三つ（何かを好きになったきっかけ・人に助けられた経験・読んで考えが変わった本）。左端に、まとめの文の型と振り返りの観点二つ。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

